



商売のまち、箕島

箕島は、有田川の水運を利用した物資の集散地として発達しました。

有田川越しに箕島をのぞむ

▼紀勢線の開通
大正14年、紀勢線が宮原まで開通しました。そのため、川舟が姿を消すようになり、その後、鉄道を中心とする陸上輸送となりました。



駅前で山積みされたみかん箱

▼帆船から蒸気船へ
帆船であった頃は、天候が悪いと何日も出航できず、みかんを腐らせてしまうなど様々な困難がありました。明治18年に、初めて蒸気船を使用し、次第に輸送上の不安が取り除かれていきました。

▼みかんの海上輸送
流域の産物であるみかんは「ひらた舟」といわれる川舟に積まれて有田川を下り、北湊で荷下ろしされました。その後、はしけ（陸と停泊中の本船との間を貨物等を乗せて運ぶ船）で本船に積み込まれ、各地へ運ばれました。



本船への積み込み

みかん輸送の拠点

▼有田川に筏が並ぶ光景
私の曾祖父である総田長兵衛は明治・大正期に木材商の事業を拡大させました。有田川上流から流してきた筏は約4メートルの長さの丸太を何本かつなぎ合わせて一つの筏をつくり、それらを15床つなぎ合わせていました。筏に乗ってくる筏師は、筏に自転車を積み込み、帰りは自転車で戻っていました。子ども頃は、有田川には多くの筏が繋ぎ止められていて、筏の上で遊んだり、筏から川へ飛び込んだりしていました。昭和28年の7・18水害の時、大量の木材が流されてしまい、その後、木材の運搬はトラック輸送に変わっていきま



総田隆信さん（箕島在住）



有田川に浮かぶ筏
(故西村俊信氏提供)

上流の森林から伐り出される木材は有田川を下り、途中で筏に組まれて運搬されていきました。

筏に乗って

— 明治150年記念特別展 —

明治・大正期の箕島

箕島は、江戸時代にはすでに回船の商売が盛んで「商いのまち」として成立していました。それは明治・大正期でも同様で、呉服商・染物所・肥料店・金物商・菓子屋など、多くのお

店が並んでいました。本年は明治150年に当たり、このたび多くの人が集まるまち「箕島」の明治・大正期の商売や生活に注目した特別展を開催します。



①

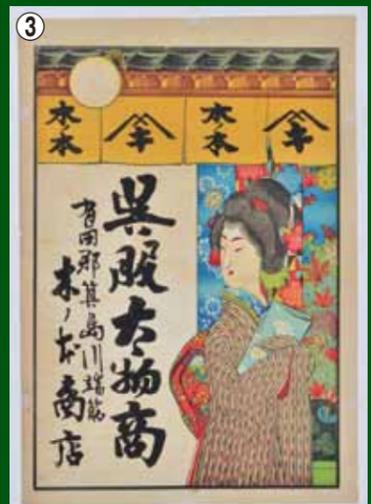
②

③

◆◆◆ 正月用引札 ◆◆◆

引札とは、江戸、明治、大正時代にかけてつくられた広告チラシのことで、独特の色合いと大胆な図柄が印象的です。また、①の引札には「藻を刈る」大黒様が描かれており、「藻を刈る」と「もうかる」がかけられているなどユニークなものもみられます。

- ①伊藤清助引札
- ②松尾商店引札
- ③木ノ本商店引札



開催中
特別展「明治・大正期の箕島」
期間 ~ 12月2日（日）
時間 9時30分～17時
（入館は16時30分まで）
場所 郷土資料館
（文化福祉センター4階）
TEL 82-3221

記念講座
10月6日（土）13:30～
「材木商の軌跡」総田隆信氏（文化財保護審議会委員）
10月27日（土）13:30～ 「瓦のはなし」
「その1 瓦散策のスヌー近代瓦の魅力ー」
松井美香氏（近代瓦研究家）
「その2 和歌山県内の瓦ー文化財修復技術者の視点からー」
下津健太郎氏（公益財団法人 和歌山県文化財センター）